

4

タジキスタン

ペンジケント遺跡発掘区VI広間1

紀元後 5 世紀から 8 世紀にかけて営まれたソグド都市ペンジケントは、現在のタジキスタン北西部、ザラフシャン川上流域に位置します。1930 年代から始まったペンジケントでの発掘調査は、その開始から 90 年を経た今もなお続けられており、シルクロード交易の中心的役割を担ったソグド人の文化や社会を明らかにしています。特に、ペンジケント遺跡から出土した色鮮やかな壁画群は、ソグド人の思想、文化的背景あるいは美的感覚を知るための貴重な資料です。

今回、東京藝術大学が複製に取り組んだペンジケント遺跡出土壁画は、現在、首都ドシャンベにある国立古代博物館に所蔵されています。この壁画は、ソグド人固有の英雄叙事詩を表現したものとされていますが、物語の内容に関する文字資料は一切残されておりません。博物館の額装展示では、ハーブを奏でる女性と、戦闘シーンから構成されており、これら整合性のとれない画面は別々の壁画だったのではないかといわれていましたが、最近の調査の結果、展示の通り一つの画面であることがわかりました。



ペンジケント遺跡の発掘作業風景 (写真提供:Bobomullo Bobomulloev)